

学校 教育 目標	「生きる 創る そして輝く」を目標とし、子どもの自らの「生きる力」を育てます。 ・豊かな心を持ち、自分や友だちを大切に育てます。(徳) ・自らの力で問題解決していく子どもを育てます。(知) ・自他の生命や体を尊重する子どもを育てます。(体) ・社会の規範となり、社会に貢献する奉仕の心をもった子どもを育てます。(公) ・だれとでも心を通じ合わせ、コミュニケーションを図ろうとする子どもを育てます。(開)					
	学校 概要	創立 150 周年	学校長 後明 好美	副校長 神田 記子	2 学期制	一般学級: 23 個別支援学級: 5
児童生徒数:		762 人	主な関係校: 栗田谷中学校、幸ヶ谷小学校、二谷小学校、横浜朝鮮初級学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	栗田谷中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<p><やさしい心で自分らしく生きる力></p> <ul style="list-style-type: none"> 主体的な学びを追求するとともに自己肯定感を目指した授業の展開 情報社会を生きる能力を育てる教育の充実 グローバル社会で活躍できる教育の充実 	栗田谷中学校 幸ヶ谷小学校 二谷小学校 青木小学校	<p>未来を拓き、心豊かに生きる力</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期的に小中一貫会議の開催 小・中の教職員の情報交換 小・中の授業公開と相互理解 義務教育9年間のカリキュラムを小中相互の教職員で検討

中期 取組 目標	<ul style="list-style-type: none"> 子ども一人一人に寄り添った教育を行い、子どもが安心して豊かに学校生活がおくれるようにします。(やさしい心の教育のさらなる充実を図ります。) (清掃活動を通して、奉仕の心を育てます。) (いじめは絶対に許さないという姿勢で教育にあたります。) (自己肯定感を育てる授業の研究に努めます。) 保護者の思いに寄り添い保護者・地域とともに子どもを育てる開かれた学校づくりを目指します。 教職員一人一人の特性を生かし、学年が学校がチームとして動く組織的な学校運営に努めます。
----------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

重点取組分野		具体的取組
知	確かな学力	①教師が生活科・総合的な学習の時間と他教科をつなげる意識がもてるように、カリマネの枠に総合的な学習の時間の欄を作り、学年で共有する。②重点研究での話題に「支援の仕方」「話し合いの仕方」など、他の授業に活かすための視点を盛り込む。指導案の「小単元にかかわる教科等の資質・能力」の部分により意識して行う。
担当	教育課程部会	
徳	豊かな心	①様々な教育活動とのつながりを道徳の時間の導入や振り返りで活用することができるよう、たてわり活動のめあてを掲示するなどの工夫をしながら取り組む。②人権週間・月間の取組や横浜朝鮮初級校との交流を通して、自分を大切に育てる心やさしい心を育てる。その取組を発信し、人権を意識する機会を広げる。
担当	教育課題部会・道徳部	
体	健やかな体	①感染症対策に合わせて短縄や長縄など種目を選んで体力アップに取り組む。また、家庭でも取り組める運動については年度の早めから発信していくことで定着を図る。②歯の健康を保つために歯磨きを改善できるように、食後の歯磨きタイムや学校保健委員会の取組を行う。また、食への関心を高められるように、食育タイムを通年で行う。
担当	体育部・教育課題部会	
公開	自分づくり教育 (キャリア教育)	①「自分づくり・パスポート」への取組を通して、自分の学び方を継続的に見つめる意識や態度を育てるようにする。②学校行事を支えるプロジェクト活動を通して、子ども同士が互いのよさを見付け合い認め合うことで、自己評価を高めていけるようにする。
担当	学習創造部会	
いじめへの対応		①「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を時期によって各学年・学級で子ども達一人ひとりに合った実践ができるよう引続き、校内研修を通して活用を進める。②「青木小学校いじめ防止基本方針」を基に外部専門機関や保護者と連携して校内やSNS等のいじめの未然防止・早期発見に努める。
担当	いじめ防止対策委員会	
人材育成・ 組織運営(働き方)		①横浜国立大学教職大学院の研究を通して、学校の課題を分析し、研修計画や組織運営の改善につなげる。②ミドル層は専門性や強みを生かし、情報を発信したり、示範授業をしたりする。メンター研はメンティのニーズに合った計画を立て、メンティの同士で学び合ったり、先輩教職員からの助言を受けたりできる研修や授業研究会を行う。
担当	教務部・メンター研	
特別支援教育		①校内委員会を中心として学校・保護者・地域・幼・保・小・中、専門機関等と連携を密にすることで、特別支援教育の充実を継続して図る。②学年研等で子どもの情報を把握するなど、日頃から教員誰もが子どもたち一人ひとりに合った支援ができるよう個別の指導・教育支援計画を活用し、よりよい特別支援教育の充実を継続して図る。
担当	児童指導・特別支援教育部会	
児童生徒指導		①廊下や階段を安全に歩く、進んで挨拶をする、掃除を丁寧に、人の話をしっかり聴く等、全教職員が同じ意識で指導をし、委員会等でも子ども達自身で考えた活動に取り組む。②年度当初だけでなく、長期休暇明けにも、学校生活のきまりを音読の宿題にする等、学校と家庭で情報を共有しながら継続して指導・支援にあたる。
担当	児童指導・特別支援教育部会	
情報教育		①ロイロノートを引き続き活用し、協働的学習を深める。その際、タブレットを使うことにこだわるのではなく、書くことの良さにも触れさせながら、必要に応じて使うように指導する。②モラル教育は教科・領域との関連を具体的に例示し、各学年で丁寧に指導していく。個人面談や懇談会で情報機器活用の現状に触れ、家庭と学校が連携して指導を行えるようにする。
担当	情報部	
地域学校協働活動		①地域への愛着や感謝の気持ちの醸成につながるように、地域と学校が一体となって150周年記念事業を企画・実行する。②地域と関わり合おうとする態度を育成できるように、生活科や総合的な学習の時間、青木のまちの風総会などで、地域と関わり合う活動を推進する。
担当	教務部	